俳諧十八番句集題 二

911.3
IV
2

類題十萬句集初編隻之部目録

隻之上

四月 初丁　卯月　更衣 二丁　初袷 三丁
袷　綿　紋 四丁　短夜　青簾 五丁
祭　鍋　祭 六丁　大矢數　灌佛
佛生會　花御堂 七丁　隻入　隻篭
隻書　帳　蚊帳 八丁　牡丹
芍藥 十丁　杜若　蜀黍 十二　葵 十三
立葵　著莪　一八　麥焼
新茶 十五　茶摘草　覆盆子　殘花

若葉　楓　十六　新樹　十七　下閣
葉柳　葉櫻　櫻実　乎花
花卯木　十九　桐花　茨花　柚苍　九
椶桐花　藪椿　茂　松葉敷　九一
常盤木落葉　橘　花橘　隻木立
枳穀花　九二　箏　蕗　尊
初鰹　鰹　時鳥　鳩　九八
行々子　九九　葭切　九一　老鶯　鶯音入
通鴨　蝙蝠　九四　蛍　螢
鵜牛　九三　蝿　枝蛙
水馬　蚊　蚊遣　九六　子　九七　子　九七

隻之中

五月　九八　藥の日　藥玉　幟
粽　菖蒲酒　九九　競馬　梅雨
入梅　竹酔日　五月雨　四十　五月闇　四十二
五月晴　黒榮　隻月　帷子　四十三
辻ヶ花　隻羽織　草物　四十四　競馬
百竹楠　菖蒲　花菖蒲　田植　四十五
早苗　四十六　苗配　四十七　苗取　早乙女
藻花　萍　菱花　川骨
紅花　常陽花　百合　四十八　苔花
隻菊　孔雀　四十九　酸漿　金銀花

合歡花　槲花　柿花
朽花　推花　青梅　瓜花
若竹　今年竹 五十一　初蟬　蟬
蟬時雨 五十二　鹿子 五十三　羽抜鳥　翡翠 五十四
鳥　水雉　照射 五十五　火串
鵜　鵜舟　鵜縄　青嵐
青さぶし　鰺 五十六
六月 五十七　水無月　氷室　暑
土用 五十八　土用丁 五十九　虫干　祇園會
鉾　不二詣　夕立　雨乞 六十

雲峰 六十一　扇　團扇 六十二　汗
汗拭　掛香　盆寐 六十三　清水
打水 六十四　風薫　竹婦人　簟
涼　納涼 六十五　氷賣 六十六　葛　氷 六十七
心太　一夜酒　氷飯　冷麥
冷汁　水粉　梅漬　鮓
草苅 六十八　青田　田艸取　蓮花
澤瀉 六十九　夕皂　盆皂 七十　撫子
眼皮　葎茂　八重葎　綿花
青芦　青芒　青鬼灯　麻
櫻麻　瓜　茄子　真果瓜 七十一

類題十萬句集初編夏之部上

洞海舍凉谷編
一貝菴一貝校合

四月

山さくら一さかり過る四月哉　蕪水
実ちかし四月へ移る夏の係　文里
桃さくら神ぬき過し四月尓　芝葉
ゆ所ゆ秀の人を四月哉　無寸
華鬘の実を布しる四月哉　孝井
かくれ家を偽はあるを四月哉　宇雪
若葉さくら夢の跡四月哉　[illegible]

宵凌　蓴荷茸　紫蘋　百日紅

火取虫　毛虫　蛭　蛸

川狩　沖鱠　七十三　虎杖　茅輪

隻景　七十四　秋隣　隻山　隻野

隻海　隻川　隻題不知

類題十萬句集初編夏之部上

洞海舍凉谷編

一具菴一具挾合

四月

山吉の一吉つゝ咲る四月哉　蕨水

咲ちゝ四月へ移る子の保　文里

桃さくら神ゝ寄し四月哉　芝榮

子の時雨の心を四月哉　無寸

華蹄の雲ゝ布しゝる四月哉　孝井

加ゝ毛家ゝ傳世あゝ雲ゝ四月哉　宇雪

若葉ゝ雲の時ゝ四月哉　[illegible]

卯月

花の跡は山へむく卯月哉　凌岱
夏出るや小袖染ても四月哉　大梅
昔絵の兎の出る四月かな　貝谷
檀林の立花見たる四月哉　素丈
茶筌の蓮包まれる四月哉　一具
古稀の宴にも忘るゝ四月哉　鳴鵆
日秋も中にもある四月かな　雁臺
雑漢ちの見えて美しき四月かな　蕉丘
植木屋も常に咲く四月かな　凉谷
名々札の手すりも四月の流けり　鳴湖
鴬の木振りに来る四月哉　はる子

更衣

住吉の松葉吹けり更衣　藤和
母ありし白洲にそれも白や更衣　山笑
飯米も見ることも更衣　芦帆
あちら向きの鞍悉くり更衣　玄々
手襷を兼て出るや更衣　可年
末白の浮かれて来るもの之　井筵
親の像まつて暖ぬ候もの之　祖竹
一家内神酒も騒がり更衣　谷従
娘子の扇ならふや更衣　姉子
有馬の紋付出るや更衣　江戸 松直
衣てきて唐衣の神々第[illegible]　南[illegible]

初袷

仲の春俗に唐や更衣
更衣素とそらに紅の中に
紅の手拭も芽ひそめし更衣
芽所に二度行る花更衣
紅の手孔さらさらと更衣
茅ぶきの二軒の人や初袷
陽炎に六月を出るや初袷
陽炎に出代の出面や袷
茅ぶきの茅の芽ぶくを袷

生涯
春
久藏
大梅
一陽
雨芽
一之
古翠
史子
相白
雨

[illegible]
拾歩あとハ林よ草貫ス　下之
法中ハ法かよりハ拾れ　夕山
前まるのよ拾ハ[illegible]る　月下
人ハ[illegible]ハ老の出[illegible]る　芳谷
舟ハ[illegible]ハ拾や小[illegible]　芦帆
仁[illegible]ハ絶[illegible]ハ拾ハ　五峨
病人の[illegible]ハ[illegible]る　一甫
重ハの上ハ引[illegible]る拾一の[illegible]　仝
旅人の[illegible]ハ拾れ　[illegible]
老人ハ[illegible]ハ拾ハ　仝

拾ハ[illegible]内ハ[illegible]ハ[illegible]
船ハ[illegible]ハ[illegible]ハ拾れ
拾ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ拾ハ
拾ハ[illegible]ハ拾ハ
拾ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ拾ハ
[illegible]ハ[illegible]ハ拾れ
[illegible]ハ[illegible]ハ拾一の[illegible]
松の[illegible]ハ[illegible]ハ拾ハ
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

自峨　[illegible]
[illegible]ハ安　[illegible]
丁ハ　[illegible]
小圃　[illegible]
越ほ　文[illegible]
ぬ水　[illegible]
[illegible]ハ安　芳谷
[illegible]ハ雅　[illegible]
[illegible]ハ　[illegible]

綿抜

袷きし昔妻子の居出ら悠　[illegible]

袷着て扇子もんて旅にいで　下毛　一水

乾海の海て出かける袷かな　古翠

此先来て松風にくむ袷哉　棠平

袷着て旅でおかけり夕和哉　耕雪女

綿ぬきや妻の形見の舟に乗　椿海

わた抜や浮世離れた丈夫　涼雨

綿ぬきや披露済る鶴の恩　ひさ雄

わたぬきや簾秋の空の明通し　字秀

綿ぬきは松も青きね乙染た　蕉丘

短夜

短夜や明ても蔵に神の旅　来之

短夜やはつる宿ぬ家も先に尽る　雄蛾

みしか夜の継ぎ明けく夜のあり　夕山

短夜は二三夜来つ乳なきひ　芳谷

みしか夜も前る香る丸芦の舟　名村

みしか夜や舟の中まて寝る紀　大山

短夜の明てしまへる不審顔　玄々

みしか夜や渡しをしたる旅用意　然巣

短夜や人の出入もある噂　萩翁

子を寝かす所も短き夜なれど　越後　棠郎

みしか夜や大名泊る二顆　汗輪

短夜や丹の盃てつれ顔の壽　[illegible]

祭
大矢數
筑ノ祭
灌佛

萩萩も枯れぬ時なく来る笠
山伏の[illegible]
物を[illegible]
大矢数[illegible]
[illegible]
[illegible]
灌佛や[illegible]
灌仏や[illegible]
灌仏や[illegible]
灌仏や[illegible]
灌仏の[illegible]
灌仏や[illegible]

キ山
為ノ女
茶筅
東忘
為ノ女
道堆
四茶
為ノ女
東止
祖ノ
[illegible]

青簾

[illegible]　竹秋

[illegible]　素蝶

青簾[illegible]　[illegible]雄

[illegible]　月岷

[illegible]青簾　松[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]青簾　布[illegible]

[illegible]　松[illegible]

三[illegible]　一具

[illegible]青簾　[illegible]

祭

大矢数

筑摩祭

灌佛

萩[illegible]青簾　キ山

山伏の[illegible]青簾　[illegible]女

[illegible]　茶雅

大矢数[illegible]一人[illegible]　素芯

[illegible]　[illegible]女

灌佛や[illegible]　道雄

灌仏や二人連[illegible]　四[illegible]

灌仏や人の[illegible]　[illegible]女

灌仏や[illegible]　東止

灌仏の[illegible]　祖竹

灌仏や[illegible]　[illegible]

佛生會

[illegible]

[illegible]仏之形合せ[illegible]白子式
[illegible]仏や四合を[illegible]傀儡[illegible]
[illegible]仏や[illegible]
[illegible]仏や体[illegible]の[illegible]
[illegible]仏や[illegible]の姿[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

武州
住吉
深谷
今
泰浦
柳美
菊谷
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

花御堂

[illegible]代の面像く仏生[illegible]
[illegible]の[illegible]仏の[illegible]
[illegible]子を連[illegible]の[illegible]仏生[illegible]
[illegible]仏生[illegible]
[illegible]仏生[illegible]
[illegible]仏生[illegible]
[illegible]仏生[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

面[illegible]
石[illegible]
一水
以吉
深谷
[illegible]帆
南石
[illegible]海
四[illegible]
[illegible]
不流

有水　蹠梁
蕉丘　南月
一具　草井
素志　二丘
古城　白安
夢庵

衾　箒
衾　書
帳

笑　葬母
杜年　荷堂
大呂　樓海
夕山　易年
葉新　庵西

蚊帳

牡丹

手ごとに毛四角に殆し牧代
梅上の毛をくるくる牡丹代
山ちる孔雀を千ちくるくるる
ちるる毛をくるくるる牡丹代
牡丹ちや先差ちを雷の絵
九ちちくぬ毛をの尋ちくる代
手丈丈に牧や牡丹のちの倣ひ
笑弦の毛をる新くちくる代
牡丹ちくる孔雀る着ちくる代
牧の吸ちくる所ちくる牡丹代
唐ちくる料理ちくる牡丹

多の女
一ちく
山笑
常陸
甫山
ちる
二丘
道雄
云く
今
紫生
垂簡

葉ちくる毛孔雀や石牡丹
一ちの花の鶴ちくる代孔
人去ちを保ちく牧月牡丹代
葉ちの葉に宋元ちくる代
ちくくと物ちく来ちる毛代
新蒲蛍四ちくる代牡丹代
帽蛍の毛ちの毛ちる毛代
雲ちの毛ちの毛ちる毛代
京鶴ちを小毛ちる毛ちく牡丹代
葉ちの毛ちく孔の毛ちる毛代
新葉の男毛ちくる毛代

雲山
井延
禾木
古翠
田兼
月峨
多の女
葉孔
丁古
一ちく
廉手

白氏巻る所に一輪ばかりもなきを
人のもとに侍りける時に牡丹
を折りて上侍る牡丹に
雪葉もあるも居たる所に
持て給仕せる所に
人よりも所に蔵之白ふ
わたる所の巻を入れ所に
扇持ねも所に所に
是れもなく人よ切る所に
月影の移る所や八重所に
山風の吹や牡丹の巻の

源子
対所
文治
四年女
芽谷
前乙
古峯
松殿
菖松
蓮西
子松

まのけるなよ牡丹の陰の来侍
元々よみ〳〵よ八世所に所に
松殿に所の来る所に
巻よ八世より所に所に
毎日の〳〵来る牡丹に
る上〳〵〳〵る人士の所に
雪葉を冥近く居る所に
切侍よ持人の居る牡丹
物子葉の尺けも這八所に
挑灯に〳〵る牡丹に
古家の居を八考に所に

云く
松秀
石苔
吟雪
源谷
夕山
寺雪
宇雪
五帝
何年
侍乗

地黄名を載せたれども
甚だ多くは名のみ多き杜若
なり牡丹畑や大世界
苟菜や桜川と田舎
苟菜や桜の情まん人呼る
手ぶくろ苟菜畑や古の伝
稽古とつ載せたる角や杜若
二人しぐれ傘一本や杜若
杜若桜しぐれ這入や古家中
紫の山を面白なりつまを
見せぶかたかなり杜若

栢樹
荷子
夢面
蕭水
道雄
多女
一雪
仝
義和
柳美
加自

並びに杜若や杜若
刺れの傍まるはるや杜若
車屋のとなりまるはるや杜若
杜若や家鴨の傍ちる
白ふくらしまる手拭干やちるまる
手を結ぶ杜若や杜若
二つまる角手まる杜若
駒方刀ちるはるやあるまる杜若
屋敷中へ芋屋桜しぐれ杜若
杜若ぶるまる口まる名まる手
ちるつまる年まる空の棒祝ひ

五峨
芳帆
芳月
文傳
徳好
馬女
友之
ちる雄
一陽
雲〻
松怒

子供なんとなくもちきらぬ樫ばかり　出羽
学庭なんぞのけぬ庭や杜若　秀樹
人工庫のくさなかやぬ杜若　垂浦
杜若豆腐をたくる伊勢屋　素志
挑て来鍬の光やうつくしき　大梅
四変色を書き中之杜若　方成
一本ぞ苟の中ぞうつくしき　斗延
一葉ぞ紙一面ぞや杜若　苟安
杉の皮ぞたくるぞうつくしき　下方
光身ぞ一つぞうつくしき杜若　一具
書き生ぞ長ぞ苟ぞ杜若　一梅
雛図

芭の中工場の工ぞうつくしき
ぞうつくしき工月代刺ぬ杜若
梨の木の実ぞうつくしき
貧傘工夫の家ぞうつくしき杜若
陸ぞうつくしぞ杜若
杉ぞうつくしぞ杜若
引ぬいて尽きぞ杜若
私の宵工一宿ぞや杜若
石屋ぞうつくしぞ杜若
挑ぞうつくしぞうつくしぞ杜若
芳戸川やる柳を挑ぞ杜若

雪茅
文角
角安
芽谷
作写
茶月
粗手
雅嶺
方の女
石持
篠山

罌粟

五月風
月明
雲雄
字魯
斗米
夕山
芝奈
仲烽
芦月
無士
橋海

道雄
素芝
大梅
冬手
古琴
多士安
双二
文海
大笑
謝堂

雉鳩
一雁
市庵
岩表
巣平
陶烟
有水
星山
花甲
笑語
跡菜

葵
立葵
著栽
一八
麥秋

常雄
次郎
原谷
芦月
西窗
不竜
一具
雉鳩
久藏
跡菜
葉月
稲穂

一　芽谷
　　若葉
　　月
　　雨夕
　　陳烟
　　雜用
　　雨考
　　不曲
　　丁寸
　　素有
　　古川
　　意雨
　　字

新茶
茶挽草
霞盆子
殘花
若葉

月
雨夕
陳烟
雜用
雨考
不曲
丁寸
素有
古川
意雨
字

第拾一ゝ甫

一 花
云く
四葉
久藏
下拾
幼芝
古城
芳孔
江戸
古陸
風光
春堂

仏師ゝ家の嗣やわゝ角
能者ゝ者ゝ和ねゝ美義ゝ
連の上ゝ所ゝ美義ゝ
必ゝ者と和の雪ゝねわゝ
嗣ゝ所の稽ゝ弱ゝ美ゝ
古所あゝの古け髪翠ゝ
神の面ゝ川のゝけゝわゝ
和ゝくゝ在所ゝ美ゝ
病人の蟹蓋ゝ和ゝわゝ
ゝ者ゝ者ゝ和ゝ者ゝ美義ゝ
岸のわゝ木毎ゝ必ゝ御ゝ

様く
蓼白
松秀
万里
永芳
古風
古橋
古琴
涼谷
久雄
第九

若楓

神垣や樣の袖なる紅葉哉　芳翠

旅人の菓子を出したわらび餅　紫雲

紙布とよ鞠の屋の美しさ　子軟

白雲のたなびく峯よ山わらび　蚕浦

鳴る滝の音や夕べの薬生　孫山

木々〳〵山家よりの美しさ　二丘

鳴るたる風の音　美楓　桂海

麓より筆とるかわら楓　了是

山中やタ刻たよりの若楓　雞間

名苗なれ紙子節やわら楓　多よ女

人先よ問命〳〵木々美楓　涼谷

一葉　苔々

新樹

木下闇

あり〳〵もたちの掛軸や美楓　佳小休

下雪や懸のわらる井戸の蛙　古地

古地ち樣多の枝ち木ち雪　素ち

ち〳〵人ち二反生ち木下雪　美柳

美柳の雪と紅や毛ち西　生田

生田〳〵ち美ち雪ち柳武　葉生

葉生ち〳〵ち雪ち深　華西川

葉櫻や子袖上ちの大樹陰　ち生ち〳〵ち二百ち〳〵ち西生ち〳〵ち

ち樣や袖ち雪ち〳〵ち〳〵ち

石苔

芝茶

古翠

鶯巣

ち〳〵女

大祇

月峨

西女

一具

紙ち雞

其笑

葉柳

葉櫻

櫻実
卯花

松秀
篠山
笑語
孤化
葛松
文呂
妹妻
茶径
蕨水
竹尤
石竜

梅雨
卯の花や行燈を消せば宵の月
卯の花の花より実の多き程の手柏哉
卯の花や咲ぬ山陰ゝ
卯の花や咲ぬ山陰ゝ
卯の花や魚の来
卯の花や門の中なる実桜
卯の花や宝殿ゝ出て秋仕
卯の花や月見て白き家と
卯の花や月見て白き家と
卯の花や小面式
卯の花や下る者ゝ袋
卯の花

茅帽
守雪
卯さ雑
正令
幼芝
左珉
丁知
芎花
巣乎
栢樹
里竹

和の歌よあるべしとて来月歌式
和の巻や夕巻ぬ里も咲る桜子
うれ巻や面よ咲るべし蜂の巻
住吉よき巻や和の巻春夏の巻
和の歌又美人絵しき桜ひ式
うの歌や月見しるべしるる不二の山
和の巻や巻るの人虫の油ひ
和の花や虫巻き巻此の巻を巻
冊の巻の巻や巻の歌ひ
和の巻を踏みよ手やうあん虫
和の巻と巻の人巻を巻絵しぬ

栗笑
如仙
岩機
能化
岩山
原谷
仝
竹岫
鶯原
氷谷
篠流

花冊木

桐花

和のもも急なへ桜ぬ海原式
和の歌ひ咲桜ふての巻と巻
うれ巻や畑の出原し悦和
冊の巻や深きてもひ一休
和の歌の祝ひ稲る尾式
立ぬ戸原咲ひ花和木
松和の月よ桜ひ歌和木
巻ひ巻よ巻ひ深ひ巻木
八船の恋ぬひ巻巻和木
人巻の稀する巻巻和木
ま巻る蛾巻上や相の歌

大桜
久藏
幼芝
一蔓
松怨
栢樹
文里
竹巻
大槙
松巻
芝・葉

茨花

第位

一甫
一貝
一貝
一挂九

柚花

椶櫚花

藪椿

茂

椿海
雨考
雨
松秀
次郎
彦
実味
雄穎
葬母
尤琴

一本の松木四方に茂り成り
給ふの事勿論なれども其
松の事なれども餅も自ら出来
松にて来り松に成る茂り
郡内なれども郡山の茂り
給地の後郡内なる出来
推量の通りなれども成り
舟義と第の松ふ成りなる
事なれども松木も蔵山所に
海一帆の海なる事なれ
ども人なれども来人なる成り

芳月
源谷
若麦
二晶
南く
如為
子松
事志
雄宿
采木
苔之

松葉散

今松四方の国の国成り
峠なれども村へ出る出なれ
ども寄社なれども水の出成り
舟出なれ又人の出る出なれ
けれども采月は一義の松葉散
一木成松葉散紫稜物
月の松は情出なれども散松も
海の岸なれども成る松葉出る
松葉散なれども一方の葉
松も散なれども郡の采なれ
ども出なれ出る義出なれ

奥

江三
不流
一蕙
雲宇
面什
布摩
如蓬
文・海

面安
庚年
相面

橘
花擽
夏木立

橘や不忘して来る鶯　萬水
面白く白々ほとゝぎす　秋堂
鶴の首伸ばし抜て夏木立　兎本
雲切れもせぬ山路の夏木立　薪水
森暮て夜は来る夏木立　葉月
里人の出る月傳や夏木立　[illegible]谷
五六人旅人面白き夏木立　芭角
鶴山の雨を分て出る夏木立　陶炯
へんぽ来るまの生茂る夏木立　然菜
世の中を鶯知や松も夏木立　素有
大雅な面白くて夏木立　乙[illegible]

枳殻花
筝

小山の麦に偖しや夏木立　[illegible]
[illegible]枳殻花　布摩
筝を[illegible]　雲[illegible]
竹の子や掃よせて麦の穂　芳帆
竹の子も[illegible]や羽黒山　[illegible]雉
筝を見よとて旅や旅[illegible]　面[illegible]
[illegible]筝[illegible]　四筝
温室屋や筝[illegible]の鞍　久臧
竹の子や[illegible]下の麦の中　一具
[illegible]筝出る井戸の[illegible]　小圃
筝を[illegible]　一楼

夏

蕗薬

初鰹

大石の竹の子掘や川向ひ　江戸　芭山

筆の板乾る夕べ　山雄

竹の子の筆負ひて帰る　竹葉

竹のもとに巻き残りたる蕨一把　宇桂

ちる所や二人乗り芽麦　ゆき雅

世のおぼつかなさよ　桂芽女

初鰹　大樓

まけぬ気や男人麦や初鰹　月呪

乃遠の舟ひとつ初鰹　一楊

初松魚とも思ひなく芽ひ　多女

一休禅刀傷や初松魚　耕雨

神保町人ごみ　初松魚

松魚

松魚よりまづ傷ましき初松魚　雨夕

ちりて三月ちさんの鰹　云く

鰹ぶし初松魚の香ばしき　東樓

ちりて　の　焼　初　松魚　代　笠雪

手寄義亦捉ちをする鰹　宗志

凡美　生　小家　入ぬ　松魚　麦　芽沾

製鰹　よ　出　凡　路　鰹　ち　舞女

凡の人　丈　魚　初　松魚　ち　次峯

初　雨　と　魚　ち　ち　鰹　麦　尚古

今　時　松　魚　ち　上　よ　ち　ち　下　名俵

ち　麦　八　松　合　ぬ　松　ち　鰹　ち　生　一甫

郭公

庵丁毛鶴の尾毛月形ゝ
青雲や傘一重かゝれん
微雲や星ゝ時雨する時雨
手のうちに無山杜宇
雲の雨ゝ雲も雨毛時雨
子規とても鳴ぬ岩間
かゝる時鳴やかよ〳〵半の夏
一声ゝ舟ゝ毛豪ゝ河雨
深ゝきに一声鳴下松の宮
時雨月ゝ落ゝの間より
鳴宮の雨の雨ゝかゝる

かゝゝきに枕刀を抱ゝ
十五夜毛明ゝ一声深ゝきに
鳴ゝ月秋や月ゝ雲の間雨
蓼の花や幻雨ゝかゝる
ゝ耳や雲を抜ゝ海
ゝ別ゝ時ゝ雲や雨魂
子規ゝ毛ゝ舟ゝ柳
明の秋明ゝ中ゝ時雨
杜宇鳴や岩の泡ゝ
雨ゝ毛雲ゝ鳴ゝ時雨
蘇川や鳴ゝ鳴ゝ子規

友ゝ
井玉
宇雲
涼爺
ゝ雄
五呪
道雄
仝
一毛
文廣
一陽

曉の簾間洩わたる杜宇
かくきえ見ぬ山ぶみ
子規四海を新に移り行
ほとゝぎすかくるゝ月
東よりも山かくきえ西の月
樵の夕もかくれぬ海
杜宇時々ゆく山を延て
急ぐ二時の宮やかくれぬ
かくきえぬ時なき船のすゝ遠
時雨降る加茂の山も樵
時雨降るのおく乘ぬ山ぶ

文和一巻云く四篇集芯竹帥警宗方式大梅庵〻椿海

かくきえ又あらはる曉の月
杜宇見えぬ雲の声
一寸出てちよつと少々時雨
対雨基の寸伝を寄る
中巻を見て時々かくきえ
雲なる紙帽子の西海
四屋恢の利屋も出て郭公
子規時々くを吹すゝ
葉も葉なる荒くうゝ時雨
杜宇吹拂ふて面白し
雨穂巻うるタ孔不二の山

出羽

宇文氏拔三平兎々
雲山李冥子是
周徳祖平松秀
西安

森坊へ六分呂の葉門や時鳥　毎上安
樵りし跡に篝や杜宇　一具
短夜を惜むとうふや水ときえ　小園
まくらにも先床の夜や涼しきえ　梅枝
面垂の相撲蔵て来ぬ海　菊濤
子規鳴くる後の鳴一声　去来紀
静かさや下部の用意も初音かな　濱高
暁し姉の若竹や杜宇　牧子
一声に秘る鳴の鬼時鳥　肩花
先住の背中打たる魂　鴬巣
黒部へきし来ぬの光や静しき　小雪

形りし名茂しやきくその時鳥　野湖
雨作も古の天の夕降る也や子規　子輅
世に連て先へ行と杜宇　文谷
よんでもと名のりて来ぬ　キ山
人の顔みる毎日あめ梅　角上女
時鳥鳴や蓮田に雨毎く　松什
家橋りの麻て鳴るや杜宇　貴谷
涼しきえ菊の来ひる花　北久呂
雨の音に初音きくや子規　大岩
来ときえ鳴く紙窓の梅られ　蚕浦
宗男に七ね松樹へ来ときえ　佐丈

荷乙
雲翠
雨秀
去華
今
奇子
角く
一爰
渡美
栽民
雲菱
布摩

仰分
竹つる
雄嬪
花を
二丘
棣く
二晶
義翠
葵白
布摩
和琴

耕雲安
不曲
蓼山
高山
古翠
黄古

陸奥

木槿
扇花
乙相
月峨

全
松秀
全
原谷
麻交
古安
秋望
義和
小交
棠郊
高安

雞鳩

雞鳩
丸充
ぬぬ
道雄
名安
一具
源谷
今
嵯峨
素有
黒文

芽谷
芭角
氏條
不忘
梅至
一枝
素芯
常名
祖了
乙貞
名安

キ山
崇郊
荷己
山雄
仲子
謝堂
一葵
仝
宮葵
栗笑
布摩

出羽

才摩
涼谷
棲海
旭丘
秋和
葵面
万里
去夫
月峨
等笠
皆月

行〻子

陸奥

夜雨夕　五竹　秋雲　芦帆　一陽　雄嶺　禾木　蓋関

変

鼓切

鶯音入

老鶯

万里　不曲　星谷　松秀　桂蕣　素芯　三平　貝谷　白起　椿汐

通鴨
蝙蝠
枝蛙
螢

文鴻
芳谷
芦月
高安
雄嶺
文和
キ山
雁蛮
一之
義和
石上

芦月
木公
井玉
丸峨
道雄
不着
尚古
葉中
素志
節之
横海

民徒
三平
桂程
未木
古翠
大費
方花
熊葉
今
佳也
四二

山伏の来たる世俗申す事成
面の数の持つまする事成
麻附の傷傍より移る事成
つ書の月皇狩り有る成
程成し三四つ出る事成
弱陸の民部殿成事成
尤遠の人まも世る事成
陸四と麻附の移る事成
一生まして物の有る成
義の陸四て廻まし出る事成
何まも古傍のよ述事成

陸奥

稲香
荷乙
松葉
桃鳩
赤古
南山
貞椎
万里
有小
篠山
古翠

厚く出たも有るの光成
上事より事申て事より
放申る有る成成家成花
四物葉市成果り事成
成也て家より祝し上事成
傍四の成より申し傍成成
事成り言家松横成面彩成
人到て傍成成成事成
上成の面傍成事成
面十粒弟成成有る義
大面より家て町より事家

蠅　蚤

石寺　江戸
稀山
月峨
素芯
猜海
高上長
斗面
芳蓋
友之
一甫　下総
茶都

子子
水馬
蚊

子軒　越後
里月
斗面
雲象
永昌
卿巣
仝
古陸
宇雪
柳花
幻蕙

自慢
為安
一具
樣海
史子
蜀山
庚子
為安
芽生
家宝
全

歌遣

二朋
蓮色
有水
然巢
陶烟
八朶
沼蓋
麻交
石上
田菖
一南

下絵

耕さぬ土の夜に見えし蛍かな　鶯巣
谷の戸の中くさに見し蛍かな　素石
川の上や星の蛍の影すく(?)　田年
下戸ながら舟の蛍かな　雪山
蛍見や水の面に来ずや隈　祖丁
くら闇を星へ登る蛍かな　白超
探るとき用なき家の蛍かな　杜貫
窓の灯の絶えてまたる蛍かな　宗女
長尾中々ふ蛍かな　万里
薫刺側へ流れ出る蛍かな　乙貞
棄人手もおちても捨置て蛍かな　蕪母

捨てし叔(?)にも蛍かな　古橋
蛍さへ捨て渡るや松の露　菊山
川ぞひや蛍見物床机かな　涼谷
出ながらすゝむ手の上を蛍哉　石龍
来る人を起て蛍かな　友安
くら闇の庭にも世話や蛍かな　二丘
捨て蛍見田面に寒き夜　古斗
暮の家を抜けたる蛍かな　一露
萩桃ふらふら飛びし蛍かな　竹華
蛍ゆく手をあげる歩しる蛍哉　芳谷
蛍より雲井の星に算ふる霄の程　麻交

洞海舍涼谷編

一具菴一具枝合

九月

夕山

芝茶

芋屋

雀坐

崇郊

芦帆

古城

月の傾くを俗呑月孔雀の尾ちるを弁中の夢子月弧深山木の葉を月庭弧山行の雲を神ゝ子月弧

菓玉も裁ちのるを秋子月弧

菓日

菓玉

懈

類題十萬句集初編夏之部上終

類題十萬句集初編夏之部中

洞海舍凉谷編

一具巻一具拔合

九月

夕山

芝葉

芋屋

微月

雀屋

棠郊

芋恢

左城

藥日

藥玉

幟

粽

菖蒲酒

競馬

素考
雅美
易足
吟震
丁之
石符
赤木
木月
玄子
月呪
四明

粽

料理物語に粽の作り方を記す
かきつばたの葉の長さ六寸ばかり
解よりは強く安土ちまき
人生の息子を出産の粽
もち米を稲の如くする
釈尊の形より稍大きく
黄なる粽を食べ
菖蒲酒下戸も上戸も
競る子孫出世
出世の樽酒
兄弟と中けの酒

菖蒲酒
競馬

和漢雅
布席
宋山
雞用
惟孝
素志
四筆
樽酒
芝葉
夢之
高安

五月雨の雨もあらぬや角田川
五月雨の雨上り物売よ四条の名
五月雨の雨はかつぐ乞食の物
五月雨や戸の隙よりあらぬ雨
はらはらと秋や茅の生ける檜の笠松
五月雨や釣よあつぱし麻の雨
五月雨やはつる秋の月を大鳴
五月雨や蒲菓をふ細の中
八方の待も洗ものや家月雨
あれ喰よ信玄茶を五月雨
五月雨もいつまも待つぬ雨哉

下絵

大物
産く
一之
男文
黄谷
吉峰
家有
一布
物色
四茶
横海

梅雨

鶉の鳴さへ持まも梅雨嘆し　義和

梅雨入や旗ぬを下る金剛柳　松秀

梅雨晴や芋の暮くる芋の苗　田扇

持くらすかり出来る中ゝ入梅の空　秋聲

入梅ぬ哉や日の本くるて葱の花　兎々

入梅晴や自然と芹雨の后　月峴

入梅や人まねしまま小袖の香　蕉丘

竹植日

今植しやうたえ人見竹の雨　古遠

竹植て竹よきける法師哉　ろよ女

竹植て見くあく壽る厚探や　曽兄

竹植る二人ゝ中記月移花　桃嶋

五月雨

五月雨の音ぬらぬや角田川　大梅

五月雨や上り師走四条宮　庭之

五月雨子かへく奇も陸の橋　一之

五月雨や家の庭子ありて帰る　君文

ほとゝぎすや芋の生くる椿の庭松　苛谷

五月雨や取まおふ照し庭の露　青峰

五月雨やはるる松の月を大湖　素有

五月雨や荒草をしゝ細の中　下総 一甫

入相の鐘も沈むや五月雨　梅雪

うれし嗅ぎ落花見てき五月雨　田筆

五月雨ともなくまで橋くぬ雨柳花　梅海

夏

久藏
古賦
四等
一皇
宋子
英山
路菜
雞肉
里子
四時
春甫

家風
和琴
松月
布席
棣く
方の女
須老
不曲
陶烟
石符
篠流

十箇
吟霞
月明
今
涼谷
棣く
秋和
百歳人
稲葉
麻交
芙月

五月晴

五月闇

黒榮
夏月

久藏
周鈴
夜久
杜子
雨芽
思文
夕山
思文
芳帆
文傳
俊好

麻手杉子木村や友の月
松の下に出る蛍の追ひく友の月
蛍出る藤の陰より出る友の月
森辺より枕さやや友の月
二三尺軒より射るや友の月
井より高き蔵の軒や友の月
筒井の陰より出るや友の月
友の月出づるとは柳に出る
陰より陰より陰より友の月
手毒の一つ咲くや友の月
人形の上より出づる友の月

龍雲　一陽　乙亥　文和　田舎　桂程　松秀　丁吉　古峯　松月　布庵

新樹より出る月や友の月
陰しより上より出る友の月
友のく巷より射るも出る
友の月出る遠の白雲
情るく物の陰や友のく
集の月鶴田くと白雲
友の月鶴田くと紅雲
人喰ふ川陰の月や友のく
尺とも赤人よ命や友のく
月の陰より人形や友の月
一掃く清き月や友の月

芳九　雄淵　桂海　田舎　源岳　真雄　石村　古峯　月峨　山雄　風毛

草物
競駈
百卅摘
菖蒲

芝草
蒔之
布席
山笑
不曲
松付
二丘
以吉
謝堂
呂次
五葉

帷子

辻ヶ花

夏羽織

川柳より来たる布子の反の月　武藏

板橋の大根の出来や反の月

芝の帳の人の寄こす反の月

朴の葉を敷とたつれば反のうら

帷子の乳を付くるる子供衆

かくれや侍の形を面白し

帷子に育ちうるは洗ひ物

六條や白紙ちりくる辻ヶ花

侍の子に育上るよ辻ヶ花

ちる糸形の男ゆるる反羽織

雪のこゝろ花や反羽織

一南　柳雪　芳谷　太瓢　二丘　松秀　耕雪　孟安　杜年　橋海　湖平

単物

競駒

百卅摘

菖蒲

傳へ傳へ傳へ傳へ反羽織

ちるも名の付く毛小紋や反羽織

反羽織孫よ孫よ母や舟ゆく

集羽織美男の板ゝ形

子ゆかしく反羽織

つゝ反羽織

反松黄紙赤の孫や栄ちの

赤ゝや明るきもの競駒

百卅の手跡よ仕せ菖蒲

孫徒の軒ちらし菖蒲

芝葉　苔ゝ　布屏　山笑　不曲　松什　二丘　以吉　翁雪　呂水　五雲

旅人の雲に遠るや菖蒲時　栗三
あやめ咲手に芦の雫かな　石村
秋毛の霧なる所菖蒲かな　素来
菖蒲さし人に香せるあやめかな　去々
一株軒に節遠ふあやめかな　大梅
菖蒲をとつもとくる端る菖蒲かな　一曳
雲ゐるそのあやめ菖蒲の生茂る　寸狂
投出して置るや菖蒲と花の珠　子敬
あやめ白にあやめ哉　謝堂
花あやめ軒の菖蒲を棟字　仝
せまいしてあやめの菖蒲や通りけり　和平

菖蒲ふく物ぞ大菖蒲哉　崇笑
尺渡しや舟の窓にも菖あやめ　素右
菖蒲との物干て葺くあやめ哉　高安
葺くあやめ哉　陶烟
桂木の曲経てゆあやめ哉　惟草
菖蒲くく風や菖蒲の葉に宿　巻山
菖蒲あやめ哉　萬山
屋根の菖蒲かな　自暁
菖蒲哉　仝
菖蒲ふくや軒を静なる町　瑞谷
菖てるあるてみるあやめ哉　芦月

菖蒲湯

花菖蒲

田植

一之
吟雪
五月
菊花
雅楽
戴星
風好
一甫
雪之
田業
大橋

名仮

一具
仝
松近
安之
其飛
丁志
里月
作つみ
ぬ仙
万里
横海

早苗

石菊
桂草
涼谷
二丘
秋蕎
素芯
黄之
耕雪
佛之
蕎之
月

○四十六

苗配
苗取
早乙女
藻花
萍

夏

星谷
戸心
鶏冠
風毛
栗笑
乙負
菜月
面壺

早苗

植るまよ植ゝ苗の稚る山田哉
不植
植ゝる苗代水の仲間入る田植哉
植草
谷
二丘
秋蕎
素麺
蕎麦
耕雪
俳諧
蕎麦
苅月

苗配
苗取

早乙女

藻花

萍

苗代の苗代水の苗代
苗の世話も苗て内義の苗代
二人苗の苗や苗る蕎麦や苗五
二三人植よ五月雨の苗代
苗代よ交ゝる休む社の杉
早乙女や苗代の苗代水の流し
早乙女や中より角士の苗代
早乙女の仮植ゝ苗代
早乙女の苗代の仮時雨壬生の陰
藻の花の花ゝ咲ゝ咲ゝ咲ゝ
萍や舟引行よ月の面

苗代
星谷
夕小
俳諧
風毛
栗笑
乙負
茶月
苗安
面白

不流
易年
石苔
芳莊
八朶
学井
飛得
孤古
流谷
芝葉
相西

菱花
川骨
紅花
紫陽花

山雄
薇和
稲荷
四季
松秀
二丘
深谷
井延
松秀
子松

百合

不流
易年
石竹
芍薬
八朶
学井
乗得
素古
深谷
芝葉
相西

石菖
酸漿
金銀花
合歡花

石菖や月のさゝぬも池の中　キ山
ひとつ〳〵子ら遊て何やかやるの畦　時朗
金銀も白いや移も香らぬ処　双二
都〳〵みな花さん山や合歓の花　一之
様々の咲や死ぬと秋草の物好き　扇よ女
合歓の花ぞ三尺の体となる子なし　謝堂
新たな出の白いの流さしや合歓の花　栗笑
降る雨や乙が身毛や様々の花　康谷
京の白露子旅やうゝ男やたゝ合歓の花　守扇
里の子も旅先け之合歓の花　大梅
合歓の花旅風すゝる音も方々の里　桑郁

苔花

夏菊

[illegible]

田蓼
月峨
名和
甫月
文鳴
布斎
一竹
桃鳩
松井
素沈
幻芝

石菖
酸漿
金銀花
合歡花

[illegible]

[illegible]
野湖
双二
一之
[illegible]
翁堂
栗笑
康信
[illegible]
大梅
紫郊

栗花

東やうら見てようえ彼方の花　荷兮

宿釣咲や旅寝の色鮮　文偁

手習の跡やかけるや栗の花　素白

ちりしく囲炉裏表の赤き文字の花　正今

植る子は聊来たり栗の花　史子

高き廊しるの枝ぬやくりの花　高よ女

兔角して家の傍に尾花茫　蘭谷

篤閑の家をぬ戸口や栗の花　仝

嘩ばして今の山より栗の華　其月

栗の花おまけよりて西に文　二晶

[illegible]のくる青額して里の花　路栄

榑花

柿花

栃巻

椎花

青梅

五月雨の跡もやの花の榑　新古雄

松浜て一山茂る柿の花　松秀

柿の花二夜雨ふるもちょう　桑耕

晴しても其程しや柿の花　雄鎮

今に茂物とよ宅稼柿の花　蕉笑

今ろ雨て傍子立より柿の花　麻交

栃咲や富市やけて何の窓　新古雄

番家の芝気禁や椎の花　高木女

白ひより蒙子無しや椎の花　以吉

青梅やよき見時より対家　其孔

青梅や肉老ひ程もち初人　白起

瓜花

若竹

今年竹

初蟬

初蝉や橋を渡りて屋敷内　雪舟
蝉声や雑木茂れる舟寄処　稲舟
蝉声や苔を生じて枯板　仝
板橋の篝火に蝉の声　芳谷
喧しく自分の声に蝉の声　俎好
蝉鳴やふくと蔵庫裏の煙　素嶺
俗世を蝉も厭ひて集　云く
樋大工の屋根の上や蝉の声　節之
蝉声や伊吉の釜の煮たらし　仝
蝉の声や麦白く明の中　九睦
蝉の声や麦白く明の中　古帆

蝉の声や冷しも樹下や蝉の声　雑象
蝉の声や冷しも樹下や蝉の声　双二
蝉の声や乳も出ぬ蝉の声　棠郊
蝉の声や夕べ傾くまで出ぬ　多安
蝉の声や笠一文出す者多し　松井
蝉の声や伊吉の釜の煮たらし　松秀
蝉声や世の中やよく拭ひたし自在鍵　葉母
蝉の声や蛍の光一里保　仝
蝉の声や蛍の光一里保　笑結
蝉の声や葉の出てゆく木陰や　稼山
蝉の声　雀

蟬時雨
鹿子

羽校鳥

翡翠

鳥

水雉

文鳥

札月

芦月

字多

茅鶏

芳蓮

古棧

接海

古川

巻雄

一陽

素花

四葉

宇佐

井筒

大貴

文鳥

里月

芽谷

竹子

布摩

真雄

鳴浮巣
照射
火串
鵜飼

十義
与人
高砂
如仙
幻道
玉葉
一具
松秀
杜賀
実の美
桂裡

青嵐

芽谷
其笑
四明
仝
万里
名お
去く
等雲
古聖
巣平
涼谷

[illegible]

[illegible]

[illegible]

暑

女郎の水宮ゝゝゝ仙境なる
山〳〵の景色を仕切りて
峰より峰に掛渡せる暑の
ロよりロを走り走りて出る暑
暑きかな屋根の棟の少しとも
可笑しと云ふ事なる暑
博の為に云ふと云ふ言葉
暑を作りて出する〳〵の暑
ちら〳〵と芋蔓の暑の
暑きかな暑〳〵光る尾瞿
戸を閉ぢて横ぶせる屋の暑

公藏
一紀
芝葉
作蔡
二位
吟窟
素来
蓼生
田蓼
仝
古城

今宵は皆月の律義暑
人参の葉の殿る夕の暑
暑さかな暑者八女の長生
孫蔓よりちよ〳〵暑
花の如き暑
暑の角
るの子孔雀なるよ暑
暑に似の〳〵ゝゝ
暑〳〵ゝゝ山の庄へ〳〵
暑ゝゝや片の〳〵雪
田の色を変
物中と云へと暑
松秀
五竹
孟女
一具
弟鄭
一市
大宮
大梅
庵半
古〳〵女
松秀

土用

土用丁

山吹の実を粉末にして用ひる

一里程先に松ある事二の町

山ちや味噌の口切ちやせ

傳ふる者ふ地蔵ふちやせ

刀屋と近所にて茶ちやせ

杉の木の作りにてちやせ

蕎麦の肩板作りにちやせ

大豆の粉にて打ちやせ

茶屋の表に掛ちやせ

須ちやちや女房ちやせ

〇作の作屋おちやちやせ

石持
屋作
久山
行灯
芦帆
友之
四義
吸物
二位
素水
乗木

虫丁

血の使ひぬ矣の杉も出ちやせ

参ちやて四ちや四ちやせ

ちや作をいちやちやせ

ちやちやや博の花色朱葉屋

ちやちやや茶の実通る且形ち

ちやちやや一ち年をちやて仕掛

ちやちやて上ちやちやちやる

ちやちやて八ちやちやて祇園

月弁のちやちや茶や宮戸山

ちやちやと鈴ちやぬ弁や曲豆角

ちやちやと枝をちやちやて不二詰

松秀
ちや安
治徒
杉月
桂程
松秀
一角
雅柳
松秀
仝
芳西美

祇園會
鉾

不二詰

夕立

一具
雅楽
月明
雅楽
桂蔭
文和
蔭之
田兼
桂程
為之

松秀
祇乙
雅平
吟雲
源岳
文俳
俊為
為之
今
俊平
秋林

雨乞

雲峯

扇

月峨
仝
源氏
久藏
稲秀
八朶
芝葉
素太
梅之
芦帆
垂柳

嵯峨
竹素
一具
仝
桂海
面白女
笑話
白桂
松秀
木架
月邨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

汗
汗拭
掛香
盈寐

甲象

松鶴
不符
幸雄
二丘
松海
松秀
二丘
雁臺
西芽
為女
古賦

清水

為女
系勢
易年
力呪
蜀徐
孔丘
為女
芦帆
力呪
蜀徐
文帆

風
雲
雨
水

竹婦人
簞
涼

金俵

一帖
秋和
芳光
四季
月峨
一帖
尚古
素竹
大梅
雪山
樵海

ちらやめ
一袋
千之
砂糖
合
芳月
相宜
五峨
月下
一帖

金俵

ちらしやや古義尤洒て人の愛
すしやや小一里先の竹生島
海しやや沖牙又愛て松の月
ちらしやや形粽並右尾氏
粽月ちらしやや海しや碁の立文
海しやや粽米毛粽て械の香
ちらしやや陸の手拭粽の上
海しやや米芳ちらの細工箱
森ちらしやや向けて海しやや尤氏
海しやや細色米る俵 俵
ちらしやや枕粽米山拭ち

納涼

[illegible]

[illegible]

[illegible]

氷賣

川傍人持来四つ角すなはち
彼枕辺に置きて元来の舟
多く氷物を積みて庭の花
万遠く人の家を呑すなり
叫々世を引過ぎたるなり
作物見の振竹すなはち
陸奥国毛越寺を過ぎたるなり
見渡せば彼を通ぬ海なり
川橋なり修行の面影なり
つすみ云葉寄義なり
松尾芭蕉

桜
雲
栗
二
郎
川
陶
鯛

葛水
仏太

葛水一杯の羽織脱ぎて仏太
様の面影戻りて仏太
橋なるの月光やとなる人
物人も来て花能や仏太
世間用よりも角力水
松尾の手元来や仏太
舟橋をして進るや仏太
市中の雪ぬ傍にや仏太
旅人の芭蕉さかりや仏太
実法師物をもたつれ仏太
物人もなるなり一杯酒

陸奥壮賞
南山
二丘
高々
月明
竹里
雅手
永芳
有月
乃華
[illegible]

一夜酒

水飯
冷麥
冷汁
水粉
梅漬
鮓

菅野の神社名元一社内
手枕の甲斐ゆるぎなし一社成
能所出の手本下所や一野内
所仮や所ゆるぎ出家より出一人
ゆるぎや菅谷家中の大手先
清井より背戸の山新稲く香
元の粉のうるとゝ蛙〳〵旅宿
梅漬や一切有れ物をの
松杉より名に二変元〳〵植付し
列ゆるぎ出家白より出〳〵植紙
紙列より植出所のゆるぎ所ゆ

稚児
陶烟
花甲
今喬
面より
栗笑
有水
乃菅
松常
面より
雜用

竹いき色
青田

菅の葉の剣ゆるし笹いきれ
那〳〵より家内ゆる志賀の青田式
舟人はまん内乳青田うゆ
藤ちゆ〳〵乾氏のえて青田式
青色〳〵元出ゆる青田式
一物ちゆ千鶴の白ゆ青田式
青ゆ乘青田の中の板うれ
植上〳〵能家の面うる青田式
那の内の青田うゆる戸口うゆ
かゆうちよゆゆの月青田式
田笹元面ゆ稲出ん庭うゆ

伯丈
貞雄
植芽安
丁岩
休園
改吉安
布摩
桃鳴
藤山
白郎

田草取

蓮花

根の末より生ずるなり蓮の葉
蓮房や蜜蜂の這ひ上るもの
物ゝ生ずるは八月蓮の花なり
ゝ品蓮形蓮花蓮花
以ゝ蓮蓮蓮の葉
ゝ蓮蓮蓮の葉
ゝ蓮蓮蓮の葉

夕顔

夕顔や白く咲残る隣棧
夕顔の中より家を出小家人
白の中の白そこを出る家の重
夕顔や 烟樹なる 竹の家
夕顔や 白の中より 猫の白
夕顔や 二十五日 二百日
白の白や 白なる 出るの出る
夕顔や 疫病 病 小松 苔
白の白より 元 白 白 る 底 白 出
夕顔や 下 白 の 住 る 組 屋 殺
夕顔や 白 雪 の 名 八 戸 松 下 呂

盈月

夕顔や 作 白 白 白 る 納 霧 尾
白 る 白 白 白 板 る 白 る 像 よ 山 の 雲
外 出 る 白 白 白 白 ね 松 の 塚
白 る 白 や 白 白 よ か る る 彩 白 の
白 る 白 や 松 る 白 る 宋 白 の 杏 戸
白 る 白 や 塔 の る る 白 の 面
ひ る 彩 や 人 待 宮 人 一 里 塚
白 白 や 抱 る ひ る 板 山 の 小
抱 る の や 何 丸 る 塚 の 夕 白 宮 人
抱 る の 白 や 白 る 白 白 白 の 白
白 る 白 や 白 白 白 白 白 白 の 白 白 白

撫子

兎々
松平
不上
庚年
蒼孔
陸奥
二丘
札月
麻交
庭面
無主

眼皮
葎
綿花
青芦
青芒
青鬼灯

出羽

桃
葛
丈二
蕨菜
椿海
明渡
赤蓼
雄鎖
蕨菜
七尾
八朶

麻
櫻麻
仇

茄子

常陸

荷乙
布摩
松秀
不曲
慈崇
辰蓋
吟霞
庭面
東樗
節之

真菜丸

初茄子畑張り仕し仏の
方々方々の癖々の切や生菜丸
美段々切々切々や生菜丸
月利々々蛭々切々生菜丸
初生菜丸の付々も一々も
淡雪や地錦作る古丸及
油掛々々筆々々若荷芽
紫藤の葉の葉々々を絞丸
百日紅
火取虫
百色い形々々々々々丸
絵々々々い世話々々々々丸
投々々々来丸々々々丸

淡雪
若荷芽
紫藤
百日紅
火取虫

二丸
田茅
松秀
今
狐子
子多
横海
手松
北賛
木公
鶯巣

毛虫　蛭　蚋　川狩

[illegible]

小圃　四条　竹里　陸奥　古陸奥　府　[illegible]　一具　月呪　芦帆

沖鱠　御殺

川狩の後に来る者の見
川をやり下る陸奥の国
川狩を五月の吼
川をやり　松の下
川をやり　[illegible]
仲秋　利　男
芦の葉も作り　仲秋
繕の風　仲
ちくちく　仲秋
中　仲秋　仲秋
[illegible]

四条　一具　小圃　信乗　月呪　英山　蒔之　松秀　月呪　一之　夕[illegible]

葉元の皆稀なる花枝哉　葉元

笠提て花枝おもや旅の上　如泥

よ行人の袖よりゆる花枝哉　陽炎

偖しく子供の雪降る花枝哉　為安

巻て雫見せるや花枝川　四巻

家々よりの帰しさよ花枝哉　有一

花枝しよ行や坂東方まで　菊松

人生よ芽の編陽や孫連て　春堂

秋の夢うつゝぬるゝ方の花哉　芝葉

美しや芽の編の上の月　大梅

乳呑子も生て見れば芽の編哉　為安

芽輪

夜景　湖月

妹隣　雪山や秋もし隣よ象郎　為桜

秋近　秋近く人の声も重四面乳　雪樓

夜山　夜山の寺住よりゆる鳴る哉　枕久

夜山の森くぬやうよりゆ句　枕琴

近よ来八月の雪の寺桜　雅堂

夜山や雪よ家もり豆腐哉　九峨

夜野　明切て旅物屋人夜哉　於作

夜海　絃鉢の寺も少しよ夜哉　如仙

夜海今寄るゝ夜の海　雅樹

題不知

[illegible]　甫　[illegible]

[illegible]　一　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　相宜

[illegible]　遼亭

[illegible]

[illegible]　秀和

[illegible]　[illegible]　仝

[illegible]　[illegible]　柯亭

[illegible]　仝

[illegible]　山羽　文呂

[illegible]　出羽　仝　子績

[illegible]　仝　華二

[illegible]　仝　仝

[illegible]　仝　美峰

[illegible]　仝　[illegible]

[illegible]　仝　石帖

[illegible] 柘榴
[illegible] 仝
[illegible] 仝
[illegible] 也雑
[illegible] 仝
[illegible] 仝
[illegible] 仝
[illegible] 二
[illegible] 仝
[illegible] 二
[illegible] 来六
[illegible] 仝
[illegible] 仝

[illegible] 柘榴
[illegible] 仝
[illegible] 仝
[illegible] 也雑
[illegible] 仝
[illegible] 仝
[illegible] 仝
[illegible] 美峰
[illegible] 仝
[illegible] 仝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

62/92
36. 3. 14